

“打”の語義について

折 敷 瀬 興

曹 先 擢

(一)

現代中国では、“打”という語は語義がもっとも複雑な文字である。《現代漢語詞典、修訂本》(中国社会科学院語言研究所詞典編纂室編，商務印書館出版，1996年7月修訂第三版，以下《現漢修訂本》とする)には25個の語義項目が並べられている。以下，中国語の語釈と用例に訳をつけた。

打¹ dǎ 1) 手或いは器具を用いて物体に衝撃を加える：～門(戸をたたく) | ～鼓(太鼓をたたく)。2) 器や皿，卵の類が衝撃によって割れること：碗～了(碗が割れてしまった) | 鸡飞蛋～(鶏は逃げ，卵も割れた)。3) 殴打する；攻撃する：～架(殴り合いの喧嘩をする) | ～援(援軍をたたく)。4) 他人とかかわる行為を起こす：～官司(訴訟を起こす) | ～交道(つきあう，交際する，相手にする)。5) 建造する；建設する：～坝(堤防や堰を築く) | ～墙(壁を築く)。6) (器物，食品を) 造る：～刀(刀，刃物をつくる) | ～家具(家具をつくる) | ～烧饼(シャオピンをつくる)。7) 攪拌する：～馅儿(餡を混ぜる) | ～糰子(糊をつくる)。8) 包む，包装する：～包裹(包装する，小包をつくる) | ～铺盖卷儿(布団を巻いて荷造りする) | ～裹腿(ゲートルを巻く)。9) 編む：～草鞋(わらじを編む) | ～毛衣(セーターを編む)。10) 塗る；描く；印刷する：～蜡(ロウをひく) | ～个问号(疑問符をうつ) | ～墨线(墨なわで線を引く) | ～格子(罫を引く) | ～戳子(判をつく) | ～图样儿(図面を引く)。11) はがす，めくる；掘る：～开盖子(ふたを取る) | ～冰(張った氷を取り除く) | ～井(井戸を掘る) | ～眼儿(穴を掘る／あける)。12) 挙げる；掲げる：～

旗子（旗を掲げる／立てる） | ～灯笼（提灯を持つ） | ～傘（傘をさす） |
 ～帘子（すだれを掛ける） ◇～起精神来（元気を出す）。13) 放射する；発
 射する：～雷（雷が鳴る） | ～炮（大砲を撃つ） | ～信号（信号を出す，合
 図をする） | ～电话（電話をかける）。14) （証書など）与える・受け取る：
 ～介绍信（紹介状を書く）。15) 除去する：～旁杈（枝打ちをする）。16) 汲
 む：～水（水を汲む） | ～粥（粥をすくう）。17) 買う：～油（油を買う）
 | ～酒（酒を買う） | ～车票（切符を買う）。18) （禽獣など）捕らえる：～
 鸟（鳥をつかまえる） | ～鱼（漁をする）。19) 刈ったり切り落としたりし
 て収集する：～柴（柴を刈る） | ～草（草を刈る）。20) 具体的に定めて打
 ち出す；計算する：～草稿（草稿を作る） | ～主意（考えをまとめる，心を
 決める，心積もりをする） | 成本～二百块钱（コストは200円で計算する）。
 21) する；従事する：～杂儿（雑用をする） | ～游击（遊撃戦をする） | ～
 埋伏（待ち伏せをする） | ～前站（先遣隊となる，先行する）。22) ある種
 の遊戲に興じる：～球（球技をする） | ～扑克（トランプをする） | ～秋千
 （ブランコに乗る）。23) 身体上の部分に表れるいくつかの動作を表す：～手
 势（手まねをする） | ～哈欠（あくびをする） | ～嗝儿（げっぷをする） |
 ～踉跄（千鳥足で歩く） | ～前失（馬やロバなどの前足が躓く） | ～滚儿
 （ころがる） | ～晃儿（huàngr）（ふらつく）。24) ある方法をとる：～官腔
 （もったいぶった態度で言う） | ～比喻（例える） | ～马虎眼（しらばくれ
 る）。25) （罪名を）定める：他曾被～成右派（彼はかつて右派のレッテルを
 貼られた）。

打₂ dǎ 介詞。「～から」：～这儿往西，再走三里地就到了（ここから西
 へ，あと1.5キロほど行けば着きます） | 他～门缝里往外看（彼は戸の隙間
 から外をのぞいている） | ～今儿起，每天晚上学习一小时（今日から，毎晩
 一時間勉強しよう）。

《現漢修訂本》に記載されている文字の中では，“打”の語義項目がもっとも多い。
 しかし，それでも語義に漏れがある。それも，重大な漏れである。

例えば，この詞典の“打”の複合語項目に並べられている語彙のうち，“打岔”の
 語釈は「話の腰を折る，邪魔をする」となっている。また，“打油”は「油を搾る，
 油をつける，みがく」，“打的”は「タクシーを借りする，タクシーに乗る」となっ
 ている。これらの語義は“打”という文字の語釈の中には含まれていない。“打”が

動詞或いは形容詞を伴って構成する「打敗」、「打倒」、「打動」、「打滾」、「打撓」、「打滑」、「打薦」等の語彙に見られる“打”の語義にしても、どう説明するのか、言及されていない。

修訂版の25番目の語義項目は、今回新たに加えられたものであるが、「打成」の“打”を「定める」としている。この解釈も正確ではない。なぜなら、“打”には「定める」という意味はないからだ。もし“打成”から“成”を取ると、“打”と「定める」の意味はまったく重ならなくなる。「打成」の“打”は、使役的な働きを持つ。“打”は“定”と置き換えることが可能だが、だからといって“打”に“定”の意味があるとは言えない。以上のようなことは、“打”の語義が多いということだけでなく、その分析も容易ではないということを表している。

“打”という文字の語義を分析する際には、“打”の語義の「层次」(語義をまず概括的に大きく分類し、それぞれを更に細かく分析していく)という問題を検討しなければならない。この問題が解決できてはじめて、“打”の語義を正確に分析することができ、“打”の語義がなぜこのように複雑なのかということも説明することができるからである。

「层次」という観点から“打”の語義を分析するという方法は、今世紀三十年代に中国から日本に留学した学者である陳望道が既に採用している。陳は劉半農と“打”の語義の多さについて討論をする中で、この方法を用いた。劉半農は当時辞典を編纂しようとして、一部の文字の語義注釈を試み、そこで“打”を選んで《打雅》という文を書いている(劉半農《半農雜文》第一冊,北平星雲書店,1934年)。彼はその中で、“打”の語義は実際多すぎる、これでは“打”は「混蛋字(でたらめな文字)」だと冗談を交えて語っている。陳望道は、《劉半農先生のいわゆる“混蛋字”について》という文の中で、概括すると“打”の語義はいくつかの類型に分けることができ、そこからより細かく分析していくことができると述べている(陳望道《陳望道文集》第二卷,上海人民出版社,1979年)。つまり、“打”は語義を明確に分析できない「混蛋字」ではないというのだ。このように、「层次」によって語義を分析していく方法は、中国で最もよく利用される《新華字典》(商務印書館,1992年重訂版)でも採用されている。以下、中国語の語釈と用例に訳をつけた。

打 dǎ ①撃つ: ~鉄(鉄を鍛える)。~門(戸を叩く)。~鼓(太鼓をたたく)。~靶(的を射る)。~夯(地固めをする)。~垮(打倒する, うち負かす)。〈引〉放射する: ~枪(発砲する)。~閃(稲妻が閃く)。
[打击]

攻撃して挫折させる：～侵略者（侵略者を撃退する）。②各種の動作を表す。多くの、具体的意味を持つ動詞の代わりに用いられる：1. 除去する：～虫（虫を駆除する）。～沫（液体の表面に浮かんだ泡を取り去る）。～食（薬を飲んで消化を助ける）。2. 壊す、破損させる：衣服被虫～了（服が虫に喰われて駄目になった）。3. 取る、集める：～魚（漁をする）。～粮食（穀物を収穫する）。～柴（柴を刈る）。～水（水を汲む）。4. 購買する：～车票（切符を買う）。～酒（酒を買う）。5. 掲げる、持つ：～伞（傘をさす）。～灯笼（提灯を持つ）。～旗子（旗を掲げる）。6. 開く、割る：～帐子（蚊帳をつる）。～西瓜（スイカを切る）。～鸡蛋（卵を割る）。7. 建造する：～井（井戸を掘る）。～墙（壁を築く）。8. つくる：～镰刀（鎌をつくる）。～桌椅（テーブルや椅子をつくる）。～毛衣（セーターを編む）。9. 梱包する：～铺盖卷（布団を巻いて荷造りする）。～裹腿（ゲートルを巻く）。10. 塗る：～蜡（ロウを引く）。～桐油（桐油を引く）。11. 遊ぶ、弄ぶ：～秋千（ブランコに乗る）。12. 通ずる、発する：～一个电报去（電報を一本うちに行く）。～电话（電話をかける）。13. 計算する：精～细算（綿密に計算する）。设备费～二百元（設備は200円で計算する）。14. うち立てる、定める：～下基础（基礎を固める）。～主意（心積もりをする、考えをまとめる）。～草稿（草稿を作る）。15. ある仕事や任務に従事したり担当したりする：～杂儿（雑用をする）。～前站（先遣隊となる、先行する）。16. 体の部分に表れる動作を表す：～手势（手まねをする）。～冷战（身震いをする）。～哈欠（あくびをする）。～前失（馬の前足が躓く）。～滚儿（転がる）。③一部の動詞を伴って一つの動詞を形成する：～扮（おしゃれをする）。～扫（掃除をする）。～搅（仕事の邪魔をする）。～扰（お邪魔する）。④～から、～より：～去年起（去年から）。～哪里来？（どこから来たのか）。

以上の語釈では、“打”を四つの大きな部類に分けている。

① “打”の本義、即ち「衝撃を与える」。

② “打”の変義、即ち「各種の動作を表し、多くの具体的意味を持つ動詞の代わりに用いられる」。

③ 「一部の動詞を伴って一つの動詞を形成する」。

④ 「から、より」。

このような分類は合理的ではあるが、不足の感は免れない。第一に、“打”が各種

の動作を表すという語義の部分については、各項目の配列が恣意的で、相互の関係を見て取ることができない。第二に、一部の動詞を伴って一つの動詞を形成するというのは、あまりにも漠然としている。例えば、“打”と「及物動詞」との結合（例：打撈，打扫，打算，打量，打听等）と，“打”と「不及物動詞」との結合（例：打倒，打断，打死，打鬧等）とは意義上同じではない。これは、動詞の合成により各語素の意味が不明確になることを、字典の編集者は説明のしようがないと感じている証拠である。しかも“打”は形容詞とも結合することができるのであるが（例：打滑，打蔫等），残念ながら、ここではそれが指摘・分析されていない。

とはいえ，《新華字典》の語釈にある四つの大分類は，“打”の解釈・分析に有用な枠組みを与えてくれる。以下、この四つの分類をもとに分析を行っていこうと思う。第四類は介詞に属し，《現漢修訂本》では独立した見出し字となっている。動詞の“打”と異なる語と見なしているのは、適切であると思う。

（二）

“打”の本義について考えてみる。

西暦 121 年に漢代の許慎によって編纂された中国最初の字典《説文解字》は、大部分が各文字の本義を注釈している。当時、この字典にはまだ“打”という文字は含まれていなかった。西暦 987 年、宋代の徐鉉等が《説文解字》を修訂したとき、“打”が「新附字」として加えられ、その語釈は「击也（撃つことである）」となっている。1953 年に前に挙げた《新華字典》が編纂され、ここでも“打”の第一語義は「击」で、一千年近く前の語釈とまったく同じである。これが“打”の本義である。この本義には、どんな注目すべき特徴があるのだろうか。

第一に、これは手を使う動作を表す動詞である。“打”の手偏が、まさにこの本義の特徴を明確に表している。“打”と“击”は同義語であり、“击”もまた手を使って行う行為を表す動詞である。

第二に、“打”という行為はたいていある目的性を伴う。中国の《漢語大詞典》（漢語大詞典出版社、1990 年 12 月第一版）の“打”項目では、「敲击，撞击」（撃つ，ぶつかる，ぶつける，強い力でたたく）という語義の項目で、四つの例証を挙げている。

汉王延寿《梦赋》：“捎颡颡，拂諸渠，撞縦目，打三顚。”

北魏贾思勰《齐民要术・种李》：“腊月中，以杖微打枝間；正月晦日，復打之。”

前蜀花蕊夫人《宮詞》之十七：“春風一面曉妝成，偷折花枝傍水行。卻被內監遙
覷見，故將紅豆打黃鶯。”

夏衍《法西斯細菌》第四幕：“哪儿是打锣，街坊上打面盆。”

第一例は武闘の“打”で、第二例は枝打ち、剪定の意味であり、第三例は鶯に小豆を投げつけて遊ぶ宮中の遊びであり、第四例は情報を伝えるという意味である。どれも、目的性を備えた行為である。この大詞典には、これらに続いて更に二例が挙げられている。「他失手打了一块玻璃（彼はうっかりしてガラスを一枚割ってしまった）」、そして「鸡飞蛋打（鶏は飛んで逃げ、卵は割れてしまった）」である。「打了玻璃」だけでは正確なニュアンスが伝えられず、通常の“打”の使われ方と異なるので、“打”の前に修飾語“失手”（不注意で）を加えてある。「鸡飞蛋打」は「割った」ではなく「割れてしまった」というニュアンスを表す。これも、“打”の通常の用法と異なる。

第三に、“打”の本義には一千年以上変化していないほどの安定性がある。“打”は日本語でも、「打つ、たたく」を意味し、やはりこの字の本義で用いられている。地理的にも安定性を保っていると言えるだろう。

次に、語義の②，“打”の変義を考える。前に挙げた《新華字典》では、これを16の項目に分けてある。この16項目には、明らかな特徴がある。それは、“打”の持つ各種具体的な語義が、賓語の影響を受けて生まれていることだ。

例えば、「打魚」という言葉では、魚は捕獲活動を通じて獲得されることから、“打”に「捕まえる」という意味が生じている。「打柴」では、柴は伐採を通して獲得されることから、“打”に「(刀や斧で)切る」という意味が生じる。「打草」では、草は刈るという動作を通じて得られることから、“打”には「切り取る、刈る」という意味が生じるし、「打酒」では、酒の獲得は購買によって実現するので、“打”が「買う」を意味することになる（「打酒」は「酒を酌む」という意味にもなるので、この場合は酒を大きな容器からくみ出して小さな容器に入れるという動作を表すことになる）。

このような特徴は、既にたくさんの研究者に注目されている。北京語言文化大学の房玉清は、

一部の動詞の語義は、しばしば賓語を伴ってからやっと明らかにすることができ
る。例えば、動詞“打”は、異なる賓語を伴って、それぞれ異なる語義を表す。
打門（敲／たたく）、打柴（砍／刈る）、打镰刀（制造／造る）、打铺盖卷儿（捆
／荷造りする）、打毛衣（编织／編む）、打图样（画／図面を引く）、打井（掘／

掘る), 打伞 (举/手で捧げ持つ), 打枪 (放射/発射する), 打电话 (发/発信する), 打水 (舀取/汲み取る), 打油 (买/買う), 打主意 (定出/定める), 打游击 (从事/従事する), 打球 (玩/遊ぶ)。

と述べているし (房玉清《实用汉语语法》北京语言学院出版社, 1992 年), また北京大学の符準青は,

“打”の語義は, 句中に表れるその語義上の「受事対象」(例えば石头, 鱼, 油, 毛衣等)の変化に従って変化する。

と述べている (符準青「“打”義分析」,《词典和词典编纂的学问》掲載, 上海辞書出版社, 1985 年)。ここで彼が「受事対象」という言葉を使っているのは不正確である。“打”の後ろにつく賓語は多岐にわたり,「受事賓語」もあれば,「工具賓語」もある(「打电话」の電話,「打电报」の電報,「打蜡」のロウなど)し,「方式賓語」もあれば(「打工」は臨時の仕事をする事,「打杂儿」は雑務をする事,「打秋千」はブランコで遊ぶことを表す),「結果賓語」もある(「打井」は“打”という建築活動の結果であり,「打桌椅」は製作するという動作の結果机と椅子ができるのであり,「打二百元」では,計算の結果二百元という数字がでる)。また,「施事賓語」もある(「打哈欠」,「打冷战」は,「哈欠打」,「冷战打」というのと同じことである)。

結局,「打」は後ろに伴われる賓語の影響を受けて語義が変わっていく」というのが正確であろう。

“打”が「受事賓語」を伴っているとき,“打”の語義は比較的具体的である。例えば,「打石头」は,「石をうがつ」という動作を表し,「打毛衣」は「セーターを編む」という動作を表す。

これが「工具賓語」を伴うようになると,“打”の語義は曖昧になってくる。「打电话」の“打”は,何を表しているのか。「请你给他打个电话」にみられる“打”は,「手を使って操作する」つまり「拨(ダイヤルをまわす)」を指している。「请你不要说话,他正打电话呢」に見られる“打”は,「電話で相手と通話する」ことを指している。「打篮球」,「打羽毛球」,「打乒乓球」の“打”の語義は,「運動を行う」としか表しようがない。具体的な意味を持った動詞と置き換えることはできないのだ。「打羽毛球」,「打乒乓球」の“打”は,無理矢理解釈すれば,「击(撃つ)」ととることができる。しかし,だからといって「打篮球」を「击篮球」などと言い換えることはできない。

「施事賓語」に至っては、「打」の語義は更に説明しにくくなる。《現漢修訂本》の「打哈欠」、「打冷战」の語釈には、この問題が如実に表れている。

【打哈欠】眠たいときに口を大きく開け、深々と息を吸い、そして吐き出す。

【打冷战】寒いとき或いは恐いために、身体が突然一、二度震えること。

“打”はどういう意味を持っているのか。ここで説明する方法はない。では、《現漢修訂本》が「哈欠」と「冷战」にどのような語釈を加えているかを見てみよう。

【哈欠】眠たいときに口を大きく開け、深々と息を吸い、そして吐き出す。

【冷战】寒いとき或いは恐いために、身体が突然一、二度震えること。

なんと“打”がついたときと、全く同じ解釈なのだ。しかし、このことから“打”は意味のない「虚語素」であるとは言えない。“打”は確かに、意味のある「実語素」なのだ。【打哈欠】、【打冷战】は、「打了一个哈欠（あくびを一つした）」、「打了好几个哈欠（何度もあくびをした）」、「打了一个大冷战（一度大きく身震いした）」等々の表現が可能である。この語義は、「生理的な不可抗力によって起こる動作」としか説明のしようがない。

よって、単に「動詞“打”は異なる賓語を伴って、異なる語義を表す」というのではまだ不足であるようだ。もう一步踏み込んだ説明、言い換えれば賓語と“打”とがどのような構造関係にあるかの説明が必要だ。もし“打”の賓語を「受事賓語」、「工具賓語」、「方式賓語」、「結果賓語」、「施事賓語」に分類すれば、“打”の語義の変化について合理的な説明を加えることも難しくない。

上で述べた、“打”の本義「(手で) 撃つ行為」は、語義変化の中にどのように反映されているのだろうか。もとの意味を保ちながら、しかも発展変化していると言えるだろう。

例えば《新華字典》第二項の中に列挙されている「動詞＋賓語」の単語や文の例は全部で40あるが、その中で手の動作と直接或いは間接的に関係のあるものは28個ある。「打傘」、「打酒」、「打車票」、「打水」、「打柴」、「打粮食」、「打鱼」、「打沫」、「打灯笼」、「打旗子」、「打帐子」、「打西瓜」、「打鸡蛋」、「打井」、「打墙」、「打镰刀」、「打桌椅」、「打毛衣」、「打铺盖卷」、「打裹腿」、「打蜡」、「打桐油」、「打秋千」、「打一个电报去」、「打电话」、「打杂儿」、「打草稿」、「打手势」で、全体の70%以上、つまり三分の二以上を占める。その他は手の行為から発展して他の動作行為を指す。例えば、《現漢修訂本》の用例「打官腔」、「打岔」、「打哈哈」の“打”は「口」による行為で

あり、「打主意」、「成本打二百元」の“打”は「頭脳」の活動を指す。口と脳も、人の持つ器官であり、手との共通性がある。

「打工」、「打零活」、「打官司」、「打交道」、「打离婚」にしても、やはり全て人の行為或いは活動を表している。

しかし、おもしろいことに、人の手の活動と人の足の活動は対立するものと考えられるので、「足」の行為は“打”で表すことができない。つまり、「踢足球」（サッカーをする）、「踩高跷」（高足にのって芝居を演じる）、「踢毽子」（重りつきの羽根を足で続けて蹴りあげて遊ぶ）はどれも、「打足球」、「打高跷」、「打毽子」と言うことはできない。

逆に考えると、“打”の語義の特徴は賓語の選択の上で制約があるということである。

中国語では、一部の単音節の動詞に、やはり“打”と類似した、「動詞＋名詞」の形式の中で語義の変化がみられるという特徴がある。例えば、「发」の本義は「送り出す」、「生み出す」であるが、「发＋名詞」の形式をとるとき、「发」には各種の異なる語義が表れる。「发信」は「手紙を出すこと」、「发榜」は「採用者の名簿を公布すること」である。「发汗」は「(薬物などを使って) からだから汗を出させること」、「发病」は「疾病が表れたこと」を指す。「发财」は「大量の富を得ること」を指し、「发福」は「中年肥りしてきたこと」を指す。「发盘」は「国際貿易で買い手が先に価格を提示すること」を指す……等々。

動詞の“上”や“下”にもこのような特徴が見られる。

“上”について例を見てみると、「上税」は「納税すること」、「上账」は「記帳すること」、「上操」は「訓練のために運動場や練兵場に出ること」、「上心」は「心がけること」、「上刑」は「刑具を使用する・拷問すること」、「上灯」は「灯をつける、ともすこと」、「上粪」は「肥料を施すこと」、「上色」は「色をつけること」……等々。

また、“下”の方は、「下蛋」は「産卵すること」、「下店」は「宿に泊まること」、「下奶」は「乳の出をよくすること」、「下箸」は「箸をとる(ものを食べる)こと」、「下世」は「亡くなること」、「下礼」は「贈り物をする事」、「下棋」は「将棋の類のゲームを行うこと」、「下药」は「投薬すること」、「下令」は「命令を下すこと」、「下结论」は「結論を下すこと」……等々である。

中国語の単音節動詞のこのような特徴は、今後更なる研究の待たれる問題である。この中でも“打”は最も典型的であり、その「打＋名詞」という結合の種類が非常に多く、語義変化も多様なだけで、類型としては他のものと同じである。だから、《現

代漢語知識辞典》(四川人民出版社, 1990 年)では、中国語の中の一部動詞の「搭配(組み合わせ)制約語義」について述べる際, “打” を例にとって説明している。

(三)

次に, 「打+動詞」の語義について考えてみよう。

これは, 以下の三つの場合に分けられる。

- a) 本義を保っている場合。例えば, 「打斗」, 「打死」, 「打伤」, 「打坏」などの“打”は, 全て「手或いは器物を使って物体に衝撃を加える」という本義で使われている。
- b) 「打+名詞」により, 転化した語義。例えば「打下」の“打”の語義は不明確であるが, 賓語を補って「打下敌人的据点」「打下基础」とすると, 前者は「攻略する」という意味を, 後者は「固める」という意味を表すようになる。《現漢修訂本》の「打下」の語釈は, 「①(ある地点を)攻略する, 攻め落とす。②(基礎を)固める」となっている。括弧にくくられた部分は重要である。これが, “打”の具体的意義を制約しているからである。
- c) “打”の語義が不明確になっているもの。例えば, 「打扫」, 「打通」の“打”が表しているのは普通の語彙としての語義ではない。これについては, 具体的説明が必要である。

「打+動詞」は, 二種類の構造に分けられる。並列構造と, 動補構造である。構造が異なれば, “打”の語義もちろん異なる。

並列構造は「打+及物動詞」で構成される。例えば「打点」, 「打量」, 「打听」, 「打保」, 「打算」, 「打扫」, 「打捞」, 「打击」, 「打杀」などがこれである。中国語では, 並列構造にはある働きがある。語義を広くするのである。例えば「打扫」, 「打量」, 「打捞」等の“打”には, 全て広範にわたる意味が備わっているという特徴がある。これは, 呂叔湘が《中国文法要略》(呂叔湘文集第一卷, 商務印書館, 1990 年)の中で「語義がかなり具体的な語が複合語を構成すると, かなり抽象的な含意が生じることが多々ある」と述べていることに通じるものがあると思う。

《紅樓夢》第三回に, 「你们赶早打扫两间下房, 让他们去歇歇」というせりふがある。ここの「打扫」には, 「掃く」という意味以外に, 「整理する, 清める」という意味も含まれている。《孽海花》第三十四回には, 「忙了数日, 直到廿二日上午, 方把诸事打

「掃完毕」という文がある。ここの「打扫」は完全に「整理する」という意味である。もし“打”を取り去ってしまうと、“掃”だけではこのような広い語義が表せなくなる。宋の欧陽修の《論牧馬草地札子》には、「逐段先打量的实顷畝」という文があり、ここの「打量」は「田畑の面積を測る」ことを指している。《紅樓夢》第九十回には、「那雪雁此时只打量黛玉」とある。この“打量”は、心の中で見当をつけること、考慮することを指しており、“量”の具体的語義から相当離れている。

“捞”は、単独で用いられるとき、語義は具体的で、「捞饺子」（餃子を湯の中からすくい上げる）、「捞饭」（ご飯を炊く）「捞鱼」（魚をすくう）とすることができる。「打捞」になると、意味が非常に広くなり、重いものを深い水の中から持ち上げて出すという動作すべてに対して使われる。例えば「打捞沉船」（沈没船を引き上げる）、「打捞鱼虾」（漁をする）等がその例である。

動詞の並列構造は、ほとんどが二つの同義語を用いて構成される。「聚集」、「别离」、「剪裁」、「洗涮」、「替代」、「削减」、「悔改」、「缩减」、「争论」、「救援」、「搭配」、「流传」、「补贴」、「觉察」、「寻找」、「点校」等々がそうである。しかし、「打点」、「打扫」、「打量」、「打捞」等の並列構造では、“打”は並列される“点”、“扫”、“量”、“捞”と同義語の関係にはない。これは特殊な並列構造である。構造上は並列と言えるが、語義上は一方に偏っている。“打”には構造上の意味しかなく、“点”、“扫”、“量”、“捞”は複合詞の語義のもとである。

動補構造は、「打＋不及物動詞」により構成される。例えば、「打倒」、「打破」、「打住」、「打断」、「打动」、「打通」等である。ここの“打”には、使役の意味が表れている。「打倒」とは、「攻撃して崩壊させる」ことを指しており（語義の解釈は、《現漢修訂本》から引用する。以下同じ）、「打破」は「もとからある制限、拘束等を突破する」ことを指す。例えば「打破记录」であれば、「記録を更新させる」ということを指すのである。「打断」は「中断させること」、「打动」は「人を感動させること」、「打通」は「障害を除去して貫通させること」を指している。

「打＋不及物動詞」が使役の意味を持つには、一つの条件がある。それは、後ろに賓語を伴っていることである。後ろに賓語がないときには、発生義しか表さない。

《現漢修訂本》の「打败」の語釈は、「①（敵を）負かす。②戦争或いは試合で負ける；戦いに負ける。」となっている。①は使役義であり、②は発生義である。例えば、「在这次篮球世界赛中，美国队打败了日本队」というのは、アメリカチームが日本チームを打ち負かしたということである。これは、「在这次篮球世界赛中，日本队打败了」つまり日本チームに「負ける」という状況が発生したと言い換えることができ

る。

(四)

「打+形容詞」について簡単に述べる。「打」は、少数の形容詞としか結合できず、その表すところはある状況が発生したということである。例えば、「打皱」は、「しわができる」ことを指し、「打滑」は「車輪或いはコンベヤベルトが運転の際に摩擦力不足で空転すること」を指す。また、雨の日に道が滑ることを、「路打滑」と表現するが、これは「滑る」という状況が発生したことを表している。

「打蔫儿」は、「①植物の枝葉がしぼんでしなだれること。②しょんぼりして元気のない様子の形容。」となっている。「打蔫儿」とは「蔫」という状況が発生すること、と言ってよいだろう。そして、《現漢修訂本》では「蔫」の二つの意味の語釈として、「①草木、花、果物などが水分を失ってしおれること。②元気のない様子」としてあり、「打蔫儿」の語釈とまったく同じである。

(五)

介詞の“打”について。

《現漢修訂本》の介詞“打”の語釈は、

从（～から）：打这儿往西，再走三里就到了。（ここから西へあと1.5キロ歩けばつきます。）

他打门缝里往外看。（彼は戸の隙間から外をのぞいている。）

打今儿起，每天晚上学习一小时。（今から，毎晩一時間勉強しよう。）

である。この語釈は《新華辞典》の語釈より正確である。

第一に、地点（空間）の例を先にもってきて、時間の例を後にもってくるのは、より適切である。“打”は空間的の起点を表すのにまず用いられ、それから発展して時間的の起点を表すのに用いられるようになったからである。

第二に、“打”は「起点」を表すだけでなく、「通過点」も表す。二つ目の例がそれである。この例の“门缝”は、動詞“看”の起点を表すのではなく、その通過点を表している。

介詞“打”と動詞“打”には、異なった由来がある。介詞“打”はどのように発生し、発展してきたのだろうか。この問題を考えるにあたっては、大田辰夫の《中国歴史文法》（江南書院，1958年）が大きな示唆を与えてくれている。